

日本と韓国の絵本における絵画様式の比較

松本 昭彦* 阿古達木**

*美術教育講座 (絵画)

**大学院学生

Comparison of Painting Style in Picture Books between Japan and Korea

Akihiko MATSUMOTO* and Akotatsuki**

*Department of Fine Arts Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Graduate Student, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1. はじめに

絵本はまだ字が読めない子どもであってもページをめくりながら順々に現れてくる絵を見るだけで楽しむことができるものである。グラフィックデザイナーの南雲治嘉は絵本の目的を教育用、躰け用、遊び、知識、ゲームの5つに分類しているが¹⁾、イエラ・マリの『あかいふうせん』(Iera Mari, Les aventures d'une petite bulle rouge)のようなストーリーのない絵本の場合、ページをめくる度に現れてくる場面の変化を通して、子どもたちは自らお話を紡いでいくのであろうから、想像力や構想力を養うという観点からは教育目的の絵本であると考えられる。人の本質を遊戯と捉えるホモ・ルーデンス的な解釈からは遊び目的の絵本であるとも言える。一般的な絵本は、絵とストーリー(テキスト)の両方から成っており、就学前であっても文字が読める子どもであれば読解力を育てる効果を期待できる。

ところで、読解力をメインテーマに調査された2009年のOECD生徒の学習到達度調査(PISA)では、65の国と地域が参加し、読解力の1位が上海、2位が韓国、3位フィンランド、4位が香港で、わが国は8位という結果であった²⁾。2012年調査では読解力1位が上海、2位香港、3位シンガポール、4位日本、5位は韓国であった³⁾。PISA調査における読解力以外の数学的リテラシーや科学的リテラシーに関する調査結果の年度別推移状況から見ても、日本と韓国は教育面で互いに切磋琢磨し合う関係にある。

そこで本研究では、日本と韓国の絵本における絵の表現様式について比較調査することで、幼少期の子どもに対する教育的アプローチに関する両国間の意識の違いについて考察を試みることにした。

2. 研究方法

2.1 絵の表現様式の分類方法

絵の分類については、日本画、洋画とか水彩、油絵、水墨画、パステル画などのように材料や技法を基準にするものや、静物画、人物画、風景画のようにモチーフで区分する方法もある。この他、テーマによる分類や、具象か抽象かのように目に見える形(象)を具(そな)える絵か抽(ぬ)く絵かによる分類、美術史のように時代や地域等による分類もある。

筆者がこれまでに試みた絵の分類方法は、写実的に描くための要素を基準にする方法である。写実的に描く要素を形、色、立体感、質感の正確さと捉え、これら4つ全ての要素を満たしている絵を「写実的」、印象派のように全体的に大雑把な絵を「ゆるい写実」、理想的な美を追究し、細密な描写はあるものの、色彩や形、立体感や質感があまり現実的ではない絵を「形式的写実」とし、エジプトの壁画や日本の浮世絵などのように平面的で、立体感や質感がない表現を「図案的」、省略が目立つ描き方を「略画的」、色や形がデフォルメされ、運筆が乱暴な感じがする絵を「表現主義的」とし、さらに「有機的抽象」と「無機的抽象」の8つに分類した(次頁図1)⁴⁾。

この分類方法では、「写実的」の対極に「抽象」が位置するので、それ以外の様式はその中間にあるという考えを示したことになる。本研究では、さまざまな絵画表現の特徴を一層理解しやすくするために、「写実」を中心とする同心円状に他の絵画様式を配置してみた(次頁図2)。「まとめる方向性」と「壊す方向性」で大きく二極化させ、形や色、立体感や質感の点で、写実的な正確さとの違いの度合いに応じて各様式を配置した。

	具 象		抽 象
写实的	ゆるい写実	略画的	表現主義的
	形式的写実		図案的
			有機的抽象
			無機的抽象

図1 絵画様式区分 (松本・金, 2012)

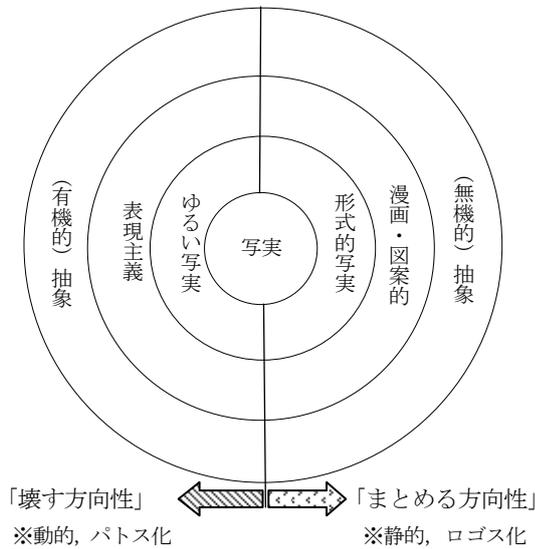


図2 絵画様式区分

「まとめる方向性」とは換言すれば、「静の方向性」「論理的な方向性」「ロゴス化の方向性」であり、もう一方の「壊す方向性」とは「動の方向性」「情動的な方向性」「パトス化の方向性」とも言える。但し調査をする上では、有機的抽象と無機的抽象を区別せず、見れば分かる具象的な絵画様式5つと、見ても分かりにくい抽象的な様式に大別して、絵本の絵画表現様式を次のように分類することにした。

- A. 写实的 B. 形式的写実 C. 漫画・図案的
- D. ゆるい写実 E. 表現主義 F. 抽象

また、絵画様式とは別に、絵以外の技法で作られた写真絵本⁵⁾や版画を用いた絵本もあるので、

- G. 写真 H. 版画

の2つのカテゴリを追加することにした。

2.2 絵本の調査方法

2.2.1 日本の絵本の調査方法

絵本の絵の様式が特定のものに偏ることがないように、名古屋市鶴舞中央図書館所蔵の絵本の中から、題名がア行からワ行で始まるものまで、ストーリー絵本に限定して300冊を無作為に抽出し、調査の対象とする。絵本の題名、出版社、出版年、作者(文)、作者(絵)、A~H(前出)の絵画様式の6項目毎に表計算ソフト(エクセル)に入力し、重複がないように留意

するとともに、項目毎に並べ替えができるようにしておく。

海外の作者による絵本であっても、日本の出版社から翻訳されて出版されたものについては、現代日本における教育目標あるいは何らかの意図に合う作品として認め、調査の対象として扱うことにする。また、文と絵が同一作者の場合には、それぞれの枠(セル)に作者名を入力する。複数の様式等が混在している場合は、主たるものを先に入力し、スラッシュ(/)に続いて従たる様式等を記号で入力する。そのほか、絵本の表紙と代表的な場面、奥付ページは許可を得てデジタルカメラで撮影し確認用に保存しておく。

2.2.2 韓国の絵本の調査方法

調査は全羅南道の光州広域市にある国立アジア文化殿堂(Asia Culture Institute, 2015年開業)内の子ども図書館を中心に、光州市立図書館、国立光州教育大学校図書館及び附設初等学校図書館で行う。日本の絵本調査と同様に、特定の絵の様式に偏らないよう、題名がカ行からハ行⁶⁾で始まるものまで、ストーリー絵本に限定して300冊を無作為に抽出して調査の対象とする。題名、出版社、出版年、作者(文)、作者(絵)、絵画様式の6項目を表計算ソフト(エクセル)に入力する。但し、海外の絵本で韓国版に翻訳出版されたものは、韓国の出版事情について明るくないため、敢えて調査の対象には含めないこととする。文と絵が同一作者の場合や、複数の様式が混在している場合等は日本での調査と同様に扱うこととする。

3. 調査結果

3.1 日本の絵本における絵の様式調査の結果

調査した絵本の総数は300冊で、次頁の表1はエクセルに入力した題名、出版社、出版年、作者(文)、作者(絵)、A~Hの様式区分の全データ300件の中から様式毎に一部分ずつを抽出したものである。

調査の結果、A「写实的」に区分された絵本はシゲリカツヒコ・文/絵『カミナリこぞうがふってきた』(ポプラ社)1冊しかなかった。また、目に見える現実をまとめる方向性で表現するBの「形式的写実」の様式で描かれた絵本は300冊中39冊であった。さらに余分な形や立体感等を取り除いてまとめるCの「漫画・図案的」様式の絵本では300冊中139冊にも及んだ。

現実的の視覚世界を情動的に壊していく方向性を持つDの「ゆるい写実」に区分された絵本は300冊中27冊、さらに壊す勢いを増して壊したかのようなEの「表現主義」的な絵で描かれた絵本は92冊あった。また、Fの「抽象」に該当したのは谷川俊太郎・文/元永定正・絵『ココロのヒカリ』(文研出版)1冊だけであった。

A~Fの絵画様式に分類する上では重複はなかったが、Gの写真絵本として田島征三・文/絵『ガオ』⁷⁾

表1 日本の絵本調査(部分) ※書名の後に*を付した絵本は図5に画像を掲載

書名	出版社	出版年	文	絵	分類
カミナリこぞうがふってきた*	ポプラ社	2010	シゲリ カツヒコ	シゲリ カツヒコ	A
あいたい ともだち	佼成出版社	2009	小林 豊	小林 豊	B
カギ*	文溪堂	2010	こばやし ゆかこ	こばやし ゆかこ	B
くんくんくんおいしそう	福音館	1994	阿部 知暁	阿部 知暁	B
アイスクリームがふってきた	あかね書房	1979	わたなべ しげお	おおとも やすお	C
えいっ	理論社	2015	三木 卓	高島 純	C
コロッケです	学研教育出版	2015	西村 敏雄	西村 敏雄	C
だるまだ!*	好学社	2015	高島 那生	高島 那生	C
クッキー・サーカス	復刊ドットコム	2014	たむら しげる	たむら しげる	C
そうちゃんはおこってるんだもん	福音館書店	2014	筒井 頼子	渡辺 洋二	C
のんびりしてたら・・・	ポプラ社	2014	五味 太郎	五味 太郎	C
そらうで	講談社	2008	もとした いづみ	たごもりのりこ	D
紅玉*	新日本出版社	2005	後藤 竜二	高田 三郎	D
そらうで	講談社	2008	もとした いづみ	たごもりのりこ	D
ポポリン*	雷鳥社	2006	木村 昭平	木村 昭平	E
みんな にげた	ひかりのくに	2016	岸田 衿子	長 新太	E
メイはなんにもこわくない	講談社	2011	きむら ゆういち	あべ 弘士	E
ココロのヒカリ*	文研出版	2010	谷川 俊太郎	元永 定正	F
ガオ	福音館	2001	田島 征三	田島 征三	G/E
きたきつねのしあわせ	絵本塾出版	2011	手島 圭三郎	手島 圭三郎	H/C
おにとアンカンぼうず	福音館	1989	儀間 比呂志	儀間 比呂志	H/C

表2 韓国の絵本調査(部分) ※書名の後に**を付した絵本は図6に画像を掲載

書名 ※()内の和文タイトル訳は筆者による	出版社	出版年	文	絵	分類
골목에서 소리가 난다 (みちでこえがする)	사계절출판사	2007	김장성	정지혜	A
할아버지의 안경 (おじいさんのめがね) **	마루별	2000	김성은	윤문영	A
내 뻘쓰 (わたしのパンツ)	키다리	2013	박종채	박종채	B
나와 우리 (わたしとわたしたち) **	글로연	2013	이선미	이선미	B
밥이 최고야 (ごはんがさいこう)	천개의바람	2015	김난지	최나미	C
도깨비 방망이 1 (おにのこんぼう 1) **	보림출판사	1996	정차준	한병호	C
숨쉬는 향아리 (いきをするつば)	보림출판사	1995	정병락	박완숙	C
등개등개 등개야 (よしよしよし)	눈열린교육	1999	정현주	김영순	C
고래등에 탄 선장 (くじらにのったせんちょう)	눈열린교육	1999	김병규	김종미	C
할아버지, 병나면 안돼요 (おじいさん、びょうきになったらダメだよ)	눈열린교육	1999	김영희	김태란	C
꼬마개미 요요의 모험 (ちびアリ、ヨヨのぼうけん)	눈열린교육	1999	김혜란	김현숙	C
연어의 고향 (사케のふるさと)	눈열린교육	1999	김혜란	최승옥	D
백조가 된 아이 (はくちょうになったこ)	눈열린교육	1999	백승자	최준식	D
병아리 옷 (ひよこふく)	눈열린교육	1999	박경중	어순영	D
잘가, 토끼야 (げんきでね、うさぎ) **	창작과비평사	2003	이상권	이태수	D
레스토랑 (レストラン)	문학동네	2013	소윤경	소윤경	E
달콤한 목욕 (あまずっぱいお風呂) **	바람의 아이들	2014	김산화	김산화	E
검은 사자 (くろいライオン)	한울수북	2010	이지선	이지선	E
콩쥐 팥쥐 (だいずねずみとあずきねずみ) **	보림출판사	1997	정차준	정대영	G
내 똥에 가시가 있나봐 (ほくのうちにむしがいたら)	책먹는아이	2011	김영미	김병남	H/C

(福音館) 1冊は「表現主義」的な作風であるためG/Eに分類したほか、Hの「版画」絵本が6冊あり、版画で表現された絵の様式については全てC「漫画・図案的」な絵画様式H/Cであった。

これらの調査結果を踏まえて、日本の絵本における絵画様式の割合を円グラフで示したものが図3である。(但し、重複分類したものについては優先される様式に組み入れてある。)

3.2 韓国の絵本における絵の様式調査の結果

韓国で調査した絵本は、現地の図書館職員の協力や写真撮影の許可が得られたこと等により、300冊を超えて総数で517冊になってしまった。しかしながら韓国での調査精度は増すであろうし、逆に日本での調査数と比較して超えた分量を差し引く適切な方法が見当たらないため、そのままデータとして使用することにした。前頁表2はエクセルに入力した題名、出版社、出版年、作者(文)、作者(絵)、A～Hの様式区分の集計を元に、様式毎に一部分ずつを抽出したものである。

調査総数が日本のそれより多かったことにもよるであろうが、Aの「写実的」に区分された絵本は25冊あった。また、現実的な視覚を整理統合してまとめる方向性で絵画表現するBの「形式的写実」の様式で描かれた絵本は517冊中54冊あった。そこからさらに一歩進めて視覚情報を「漫画・図案化」する様式区分Cに該当する絵本は268冊にのぼった。

一方、日常的な視覚を緩やかに壊すDの「ゆるい写実」に区分された絵本は517冊中78冊あり、さらに壊す勢いを増すEの「表現主義的」な絵の絵本は65冊あった。Fの抽象に区分された作品はなかった。A～Fの絵画様式に分類する上での重複は、「漫画・図案的」な要素をやや含む「形式的写実」様式に該当するB/Cが1冊、「漫画・図案的」要素のある「表現主義」的な絵本E/Cが6冊あった。Gの写真絵本が13冊あったうち、重複する「漫画・図案的」要素のあるG/Cが2冊、「ゆるい写実」的要素も認められるG/D絵本が1冊あった。Hの版画絵本は517冊中14冊で、そのうち12冊が「漫画・図案的」な版画で表現されたH/C様式で、ほかにも「ゆるい写実」的要素のあるH/D様式の絵本が2冊あった。

これらの調査結果を円グラフで示したものが図4である。(図3と同様に、重複する表現様式は優先される様式に組み込んでいる。)

4. 考 察

4.1 日本の絵本における絵の様式から

日本の絵本における絵画様式の中で最も多いのは「漫画・図案的」の139冊で全体の46%を占めている。文の読めない子どもの場合、大人が読み聞かせをして

いる間、自らは集中して絵を見ながら、お話しに耳を傾けているのであろう。その際、ストーリーは勿論、絵本の絵画表現で重要なのは親しみやすさや分かりやすさであって、描写技術を要する「写実」や「形式的写実」よりもシンプルな表現が求められていると考えられる。この傾向はディック・ブルーナの《ミッフィー》やキヨノサチコの《ノントン》等を見れば分かるように、赤ちゃん向け絵本や低年齢向けの絵本になるほど、より顕著な傾向にあると言える。また漫画にはクールジャパンとして現代のわが国を代表する文化としての側面もある。

次に多かったのは「表現主義」の92冊で、調査対象全体の31%に該当する。就学前の子どもを対象にした絵本では、子ども自らは文字を読めないにせよ、大人たちから聞かされるストーリーが持つ心的な部分を、この様式の絵には助長させる力があると考えられる。つまり喜怒哀楽と言った感情の動きや感覚等を視覚的に増幅して表現する際には有効な絵画様式と言えるのであろうが、「壊す方法性」のある絵画は一方で芸術的ということでもあり、テキストの内容や展開等とのバランスも大いに関係している。

その次に多いのは「形式的写実」の39冊であり、全体の13%であった。この絵画様式は「写実的」とは別の描写技術を要し、画面構成上でも美的な整理が必要となる。初期フランドル絵画のようなストーリー性を有する半ば緻密なイラスト的な絵画に向けた様式であると言える。テキストをより正確に理解できるように説明的な要素のある絵が求められる際には有効であるため、発達段階がある程度進んだ7才以上の子ども向けの絵本に多い。

次いで「ゆるい写実」が21冊で全体の7%、「版画」の6冊(2%)と続くが、版画の絵の様式自体は前章で述べたように全てが「漫画・図案的」であるので、最も多かった表現様式における技法バリエーションの一つであるとも位置づけることができる。最も少なかった様式は「写実」「抽象」「写真」であり、それぞれ1冊ずつ(0.3%)であった。

これらのことを踏まえると、日本の大人社会は就学前の子どもたちに対して、正確な形や色や立体感ではなく、親しみやすく分かりやすい「漫画・図案的」な絵画様式を提示することで、書物に親しむ生活習慣を身につけさせることや、象徴的な形や色彩を通して読解力の基礎的資質を育もうとしていると考えられる。

また、自力で読まない子どもであっても、ある程度は他者と共感できるような年齢に達すると「表現主義」的な絵の絵本が増えてくることから、心を育むことに重点を置き始め、さらに就学する時期になると説明的要素のある「形式的写実」や「ゆるい写実」の様式も増えることから、理解力の育成を重視するものと考えられる。

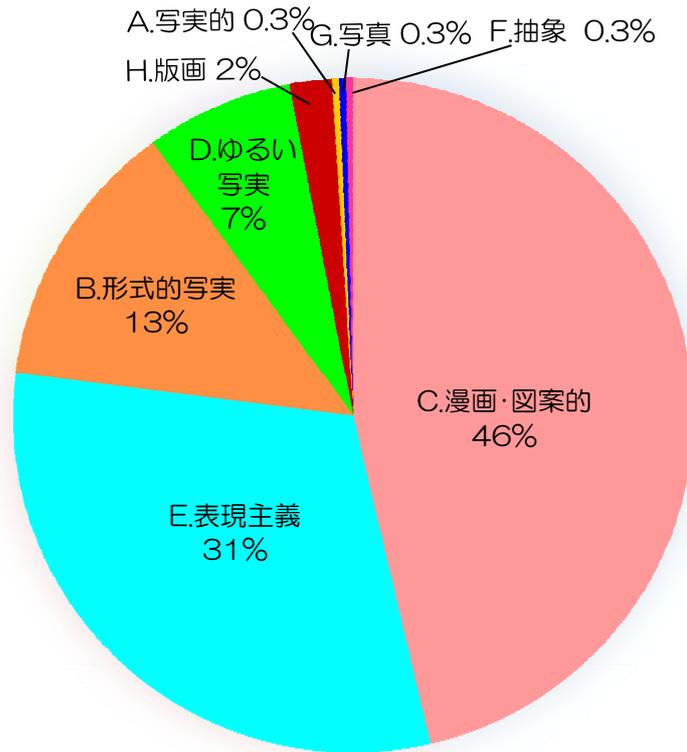


図3 日本の絵本における絵の様式割合

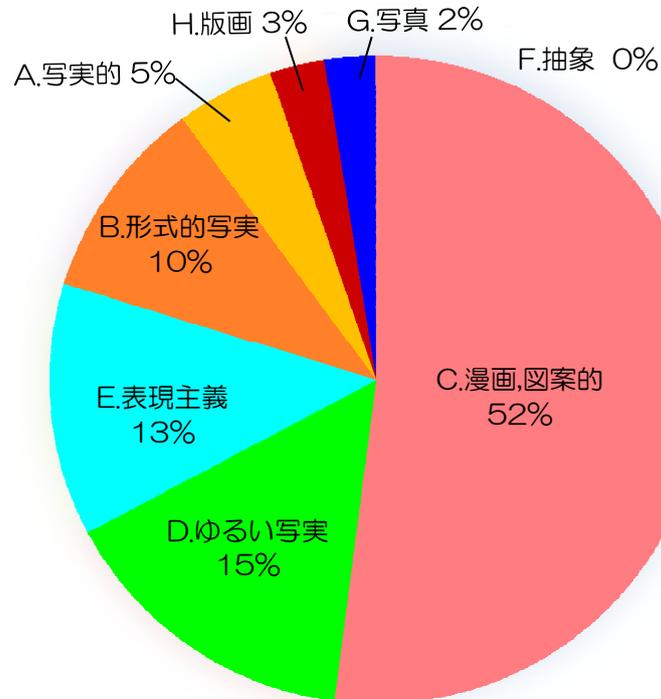


図4 韓国の絵本における絵の様式割合



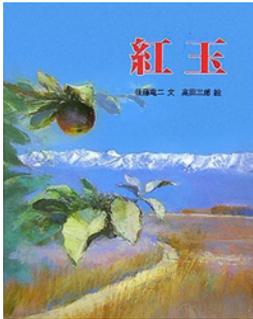
A. 写実的
『カミナリこぞうがふってきた』



B. 形式的写実
『カギ』



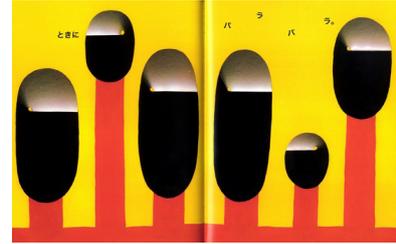
C. 漫画・図案的
『だるまだ!』



D. ゆるい写実
『紅玉』

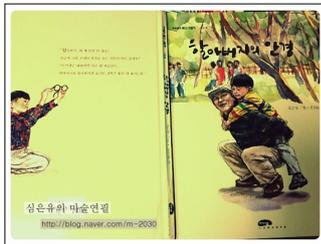


E. 表現主義
『ポポリン』

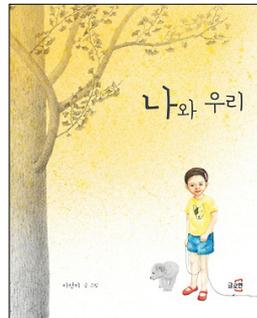


F. 抽象
『ココロのヒカリ』

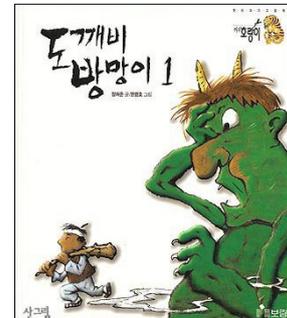
図5 日本の絵本の様式例



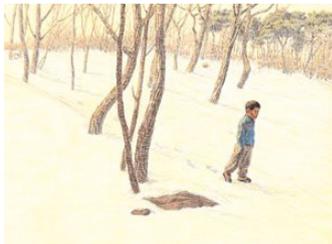
A. 写実的 『할아버지의 안경』
(おじいさんのめがね)



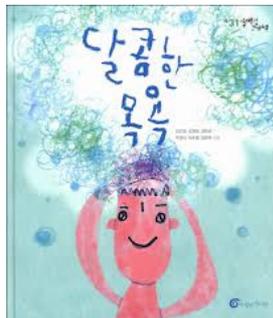
B. 形式的写実 『나와 우리』
(わたしとわたしたち)



C. 漫画・図案的 『도깨비 방망이 1』
(おにのこんぼう 1)



D. ゆるい写実 『잘가, 토끼야』
(げんきでね, うさぎ)



E. 表現主義 『달콤한 목욕』
(あまずっぱいおふろ)



G. 写真 『콩쥐 팥쥐』
(다이지네ず미とあず키네ず미)

図6 韓国の絵本の様式例 ※ () 内の邦題訳は筆者による

4.2 韓国の絵本における絵の様式から

韓国のストーリー絵本517冊を調査した中で最も多かった絵画様式は「漫画・図案的」の268冊で全体の53%を占めており、日本におけるこの様式が占める割合よりも多かったことには驚かされる。韓国の絵本では、就学前は勿論、就学後も親しみやすく分かりやすさを重要視することで、読書をする意欲や理解力を継続的に育てようとしているものと考えられる。

続いて多いのが「ゆるい写実」の絵画様式の絵本であることから、比較的日常的視覚に近い絵で説明的要素を交えつつ現実味を帯びさせ、観察力や理解力を育てようとする意識があるものと考えられる。また、3番目に多いのが「表現主義」的な絵で構成された絵本であることから、芸術性を帯びた絵画様式を通して、読解力とともに他者と共感できる力を養おうとする意図が読み取れる。

次いで4番目以降には「形式的写実」「写実」と続くが、説明的な要素が多い表現様式ほど、現実に対する観察力や理解力を育むためには有効な手段となり得る。韓国では子どもたちに対してファンタジーだけではなく、あたかも本当の話かと思わせるリアリティのある絵画表現を通して、就学前後を問わず理解力と読解力を育もうとする意識が大人の側に働いているものと考えられる。

それに続いて、少ない数ではあるが、版画絵本の絵画様式は「漫画・図案的」が殆どであることから親しみやすく、且つ芸術性もある表現を通して読書することの楽しみを促しつつ読解力を培おうとする意図があるものと思われる。最後は「写真」を用いた絵本表現であるが、コラージュで作った原画を写真撮影することで絵本に仕立てている。見ている者にとっては、人形を使ったアニメーションのようにも感じることができると、たいへん親しみやすく、子どもたちの本に対する愛情を育みながら、空想する力や読解力を育てようとしていると考えられる。

4.3 日韓の絵本における絵の様式の比較から

本研究において、日本のストーリー絵本と韓国のストーリー絵本に見られる絵画様式について調査したところ、両国とも「漫画・図案的」表現が最も多いことが分かった。このことから日韓ともに大人社会は子どもの育成にあたり、親しみやすさを優先する姿勢が明らかになった。「漫画・図案的」表現は細部を省略することで分かりやすい表現が可能になるため、基礎的な理解力を培うのに適していると言える。とりわけ幼少期の子どもたちに与える絵には、立体感や質感等の細密な描写を必要としないと考えられていると考えられるが、象徴的且つ図案的な絵画表現様式が多い。

幼少期の子どもの場合には自ら文章を読むことは殆どないため、大人たちが読んで聞かせるストーリーに耳

を傾けつつ画面を見入ることであろう。そのとき重要になるのは分かりやすく親しみやすい絵であるか否かである。ともに競争社会である日韓両国では「漫画・図案的」表現は就学前の子どもたちの絵本の主流であると同時に、就学後であってもストーリー絵本だけに留まらず、さまざまな分野の学習参考用にもこの様式が活用される絵本が存在している。

本研究で明らかになったことで最も興味深かったのは、日本では「表現主義」の絵画様式が2番目に多いのに対して、韓国では「ゆるい写実様式」が2番目に多かったことである。また、3番目が日本では「形式的写実」で、韓国では「表現主義」であることや、4番目が日本では「ゆるい写実」で、韓国では「形式的写実」となったこと等もそうである。

これらの表現様式が持つ特性をまとめると「表現主義」的な絵は芸術性が感じられ、ダイナミックな絵画表現とあいまってテキストの大胆な展開の面白さを増幅できること、「ゆるい写実」は現実的な場面を柔らかく表現できるので説得力のあるテキストに向いていること、「形式的写実」には構成的且つ図式的な要素が含まれるのでファンタジーのあるテキストに向いていること等が挙げられる。

以上を踏まえつつ子どもたちに対する両国間の教育的な意図の違いを絵本の絵画様式の点から見ると、日本の大人社会は、親しみやすさと分かりやすさを通して理解力の養成を優先させ、次いで面白さと大胆さを通じて共感する心の育成や構想力を育もうとしており、韓国では親しみやすさと分かりやすさによる理解力の養成に次いで、現実的な場面から読み解く力の育成に力を注いでいると言える。

しかし絵本は必ずしも子どもたちへの教育目的だけではないことも明らかな事実であり、出版社のポリシーや経営面等を考慮すると、大人社会の思惑も随分と働いているようにも思われてならない。

5. まとめ

日韓のストーリー絵本における絵画様式の調査を通して、幼少期の子どもへの教育的アプローチに対する両国間の意識の違いについて考察を試みたところ、以下のような知見が得られた。

- ①日韓ともに「漫画・図式的」表現の持つ親しみやすさと分かりやすさを通して、書籍に親しむ生活習慣の獲得と理解力の養成を最優先している。
- ②日本では「表現主義」的な絵画表現の持つ大胆な面白みを通して共感力や構想力の育成を図ることも重視される。
- ③韓国では「ゆるい写実」の表現が持つ柔らかな現実味のある場面を通して、子どもたちの読解力の育成を重視している。

6. おわりに

子どもの教育に絵本が欠かせないとは断言できないが、現代の日本と韓国の社会では子どもを取り巻く環境に絵本が存在することはきわめて当然のようになっている。本研究に携わって「写実」や「ゆるい写実」の絵画表現が日本の絵本には少ないことが明らかになった。現実的表現からは読み解く必要がないということであろうか。現代の教育を取り巻く環境は発達障害や貧困等、大きな問題を抱えているほか、絵本を含め、書籍全般にわたりデジタル化も進んでいる。こういう時代こそ変化を恐れず改革を進めなくてはならないことは理解できるが、いかなる時代でも人間社会を生き抜くためには他者と共感する力も必要である。

韓国光州広域市にある国立アジア文化殿堂（Asia Culture Institute）の子ども図書館での調査では教育チームの方々に大変お世話になったことに謝意を申し上げる。

注

- 1) 南雲治嘉, 『絵本デザイン』, グラフィック社, 2006, p.30
- 2) 国立教育政策研究所, 『OECD生徒の学習到達度調査～2009年調査国際結果の要約～』, 文部科学省, 2010, p.7
- 3) 国立教育政策研究所, 『OECD生徒の学習到達度調査～2012年調査国際結果の要約～』, 文部科学省, 2013, p.14
- 4) 松本昭彦・金由惺, 『キミ子方式の応用題材に関する研究－応用題材開発の可能性について－』, 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 2, 2012, p.30
- 5) 写真を使った絵本の総称。近年, 増加傾向にある。
- 6) 日本の「あいうえお順」に相当する「カナタラ…」順が韓国にある。最後はハ行になる。
- 7) 田島征三・文／絵, 『ガオ』, 福音館, 2001は木の実を使ったコラージュを写真撮影している。

図像出典

図5及び図6の図像出典については, 本文中表1及び2を参照されたい。

(2016年9月23日受理)